

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成31年4月4日 (2019.4.4)

【公表番号】特表2018-515922(P2018-515922A)

【公表日】平成30年6月14日 (2018.6.14)

【年通号数】公開・登録公報2018-022

【出願番号】特願2017-557161(P2017-557161)

【国際特許分類】

H 0 1 L 43/10 (2006.01)

H 0 1 L 21/8239 (2006.01)

H 0 1 L 27/105 (2006.01)

H 0 1 L 43/08 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 43/10

H 0 1 L 27/105 4 4 7

H 0 1 L 43/08 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成31年2月14日 (2019.2.14)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 2】

第 1 の電極 2 5 は、アモルファス X N を含む第 2 のアモルファス領域 1 8 を含み、ただし、X は、W、M o、C r、V、N b、T a、A l、および T i のうちの 1 つまたは複数である。N はもちろん窒素であり、X N は、化学量論性を示すことを必ずしも意図してはいない。本文書で使用するよう材料または領域を「アモルファス」と特徴づけることには、記載する材料または領域の体積の少なくとも 9 0 % がアモルファスであることが必要である。領域 1 8 は、アモルファス X N を含むか、実質的にアモルファス X N からなるか、または、アモルファス X N のみからなる場合もある。一実施形態では、第 2 のアモルファス領域 1 8 のアモルファス X N が、第 1 の結晶磁性領域 2 0 の C o および F e に直接接触している。第 1 の結晶磁性領域 2 0 が B を含む一実施形態では、第 2 のアモルファス領域 1 8 のアモルファス X N が、第 1 の結晶磁性領域 2 0 の C o、F e、および B に直接接触している。一実施形態では、X は、W、M o、C r、V、N b、T a、A l および T i のうちの 2 つ以上を含む（すなわち、2 つまたは 3 つ以上）。一実施形態では、アモルファス X N は化学量論的である。一実施形態では、アモルファス X N は、非化学量論的に N リッチである（これにより、たとえば、化学量論的 X N の導電率よりも導電率が低減される）。一実施形態では、アモルファス X N を含む第 2 のアモルファス領域 1 8 の最大厚さが、約 1 0 オングストローム以下である。